JIM-NET 便り

3 月号（発行：2022 年 3 月 29 日）

NEWS

厳しい冬となったアルビルの支援現場と子どもたち……牧野アンドレ（アルビル駐在員）／バルザン（アルビル現地スタッフ）P2
【写真】♥子どもたちと笑顔♥……P4
11 年の時は過ぎ……神谷さだ子（日本チェルノブイリ連帯基金事務局長）P5
皆さまへ、感謝を込めて……鎌田實（JIM-NET 代表）・チョコ募金にご協力ありがとうございました P6
チョコ募金キックオフチャリティーイベント　JUSTPEACE! ～虹の彼方へ～……崔麻里（広報・イベント担当）P7
BOOK GUIDE……P8

JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

特定非営利活動法人　JIM-NET（ジムネット）
〒 169-0075　東京都新宿区高田馬場 4 丁目 4 番 11 号　内藤ビル 2 C
電話 03-6228-0746　メール info-jim@jim-net.net

厳しい冬となった
アルビルの支援現場と子どもたち

牧野アンドレ（アルビル駐在員）／バルザン（アルビル現地スタッフ）

ショートムービーを撮影中

12 月に開催したクリスマスパーティ

イラクでは昨年の冬、雨がほとんど降らず、その影響で夏場は全土で水不足が深刻となりました。それだけに今年の冬は、雨への期待も高くなっていました。今年、当初は予想以上に多くの雨が降り、順調な雨季の滑り出しと見られていました。しかし、局所的な豪雨に見舞われる日が何日かあり、排水システムが未整備で土地の低いアルビル市の一部地域では洪水も発生し、何人もの人が亡くなる惨事となりました。現地スタッフの一人の家でも腰までの高さの浸水に見舞われ、家財道具がダメになる被害を受けました。

また、比較的温暖なアルビル市内でも約 20 年ぶりに雪が積もるほど気温が下がり、1 月には暖房設備のない公立学校が 2 週間も休校になりました。そんな厳しい冬の中で迎えたアルビル事務所の新年ですが、スタッフ皆、元気に新年を迎えることができました。

今年度、JIM-NET では院内学級の質の向上に力を入れています。4 月からの本格的な開始を目指し、子どもたちの成績表の作成、宿題ノートの作成などを通し、治療などでお休みをしなければならなくなった子どもへのフォローアップの強化、定期的な保護者会の開催や子どもたちの創造力を育む場としてのアクティビティの実施など、多くの新しい取り組みを行っています。今まで通り、がんを患う子どもたちの心を癒す場としてはもちろんのこと、治療が終わり学校に復学することを見据えた院内学級の運営を目指しています。

一方、新型コロナウイルスの流行で長らく大きなパーティなども開けず、院内学級の子どもたちは少し寂しい思いをしましたが、イラクのクルド自治区でも感染者数が落ち着いてきたことから、病院の許可を取り、少しずつ地域社会を巻き込んだイベントの開催ができるようになりました。

12 月にはクリスマスパーティを開催し、1 月には地元の大学生有志が院内学級の子どもたちにアクティビティを企画してくれ、笑顔であふれるひと時を作ってくれました。2 月には、「国際小児がんデー」を記念したイベントを開催しました。病院や地元の企業さんたちが協力してくださり、盛大なイベントとなりました。

JIM-NET も「国際小児がんデー」に向けて、院内学級の子どもたちとショートムービーを撮影し、保護者や地域社会の皆さんに向けに上映しました。上映中、子どもたちの頑張りを見た保護者の何人かは涙を流していました。

さて、今回の支援現場からのレポートでは、JIM-NET が支援をしている子どもたちのことをご紹介させていただきます。子どもたちの物語と生きた軌跡をぜひ知っていただければ嬉しいです。

エハラス・オスマン（12 歳）　病名：サラセミア（地中海貧血）

エハラスは 2 つ年上のお姉さんのサラと一緒に、ずっと JIM-NET の院内学級に参加してくれていました。少し人見知りをする子でしたが、徐々にクラスにも馴染むようになり、笑顔が絶えない女の子でした。

彼女の夢はお医者さんになり、自分のように病気の子どもたちを救いたいというものでした。しかし 2021 年の春先、感染症にかかり、前年に亡くなった同じ遺伝性疾患を抱えていたお姉さんの後を追うかのようにこの世を去りました。

亡くなる一週間前、エハラスは JIM-NET のスタッフに「自転車がほしい」と話しており、スタッフたちも病院側に許可を得て、彼女にサプライズを考えている最中だっただけに、エハラスの死はとても大きなショックでした。

どうか天国でお姉さんと一緒に、幸せに暮らしてね。

アナス・ハデル（14 歳）　病名：急性リンパ性白血病

アナスは、2019 年春に JIM-NET ハウスが出来た当初から院内学級に参加してくれています。小さかったアナスも今では 14 歳になり、一緒に成長を見守れたことをスタッフ皆が嬉しく思っています。

一度は白血病を克服しましたが、その後再発し、新型コロナウイルスのデルタ株が猛威を振るっていた 2021 年春にインドへ渡り、骨髄移植手術を受けました。手術は無事に成功したものの、まだしばらくは治療を継続する必要があります。

将来は警察官になりたいという夢を語ってくれるアナスは、歌うことが大好きで、よくスタッフや院内学級の先生たちの前で歌を披露してくれ、さらには院内学級でもみんなをまとめてくれるお兄さん的な存在です。早く病気がよくなって、また普通の学校生活に戻れるといいね。「絶対に元気になる！」という彼の強い意志に、スタッフたちもいつも勇気づけられます。

ダーリーン・バワル（6 歳）　病名：軟部肉腫

ダーリーンは元気いっぱいで、明るい女の子でした。スタッフや院内学級の同級生たちもダーリーンの素直な可愛さに自然と笑顔になっていました。

2020 年、脳に腫瘍が見つかった直後から院内学級に参加をしてくれていました。いつもカラフルな服を着て、音楽が流れるとすぐに踊り出し、身体は一番小さいながらも常にクラスの中心にいる女の子でした。

インドに治療のために渡り、あまり成果が出ずに帰ってきた後も希望を捨てることなく、「ダーリーン、元気？」とスタッフが聞くと、酸素チューブが外せないような容態であっても「元気だよ」と笑顔で答えていました。

どんな時でも希望を捨てず、最後までがんと闘ったダーリーンでしたが、2022 年 1 月に自宅で家族に見守られながら天国へと旅立っていきました。

ダーリーンのいなくなった JIM-NET ハウス。今でも耳をすませば彼女の元気な声が聞こえてきそうです。

♥子どもたちと笑顔♥

11 年の時は過ぎ…

神谷さだ子（日本チェルノブイリ連帯基金事務局長）

下：炊き出しのおでん／上：2011 年 6 月線量測定

3 号機で水素爆発が起き、噴煙が上がる映像に背筋が震撼したあの時。「原発事故が起きてしまったら、まず風向きです」と毎日、北東の風を願っていたあの頃。半減期が 8 日間の放射性ヨウ素を子ども達が取り込みませんように、と祈った日々。2011 年 3 月 12 日から、日本での放射能災禍と向き合う日々が始まった。

未曾有の出来事は、子どもたちの甲状腺検診の診断結果にも保護者の混乱を招き、基本的に健康を守ろうという呼びかけさえかき消されていった。チェルノブイリの原発事故後、風下の地域では小児甲状腺がんが急増した。そのことも踏まえ、情報の混乱に私たち NPO が対応しきれなかったのではないかという反省がある。

JIM-NET とネットワークを組んでいる JCF（日本チェルノブイリ連帯基金）は、1991 年からのチェルノブイリ支援の経験から子ども達の外部被ばく・内部被ばくを防ぐために国内外の多くの方々から寄せられたご寄付を基に、ガイガーカウンターを貸出し、ガラスバッジを身につけていただき、一ヶ月毎に結果を知らせながら生活の身近な所にホットスポットがないか調べつつ、少しでも除染していただくよう活動してきた。また、土壌・食品汚染を調べるために、“チームめとば”という信州大学の学生を中心とした測定チームを作り、今も尚、学校給食をはじめ、春の山菜、秋のキノコ測定には、市民の皆さんからの試料の提供を受けながら継続している。そして、解った事は原発から 300 ～ 400 キロ離れた長野県内でも、今も山菜のコシアブラ、ショウゲンジ等のキノコから基準値以上の放射線が検出されるのである。

また、少しでも汚染地から離れて子ども達に自然の中でのびのびと過ごしてほしいと、2011 年夏から保養に保護者も含めて呼んでいる。福島県内では、事故以後、避難した家族と残った家族、補償金が出た家族と道一本で出なかった家族など、割り切れない理由で軋轢が生まれている。汚染について、健康を守るためにどうすればいいのかと身近なママ友に話すことさえ躊躇するという保護者からの言葉を何度も聞いてきた。せめて保養に出た先では、不安な思いを吐き出してほしい。子ども達には思いっきり、野原を駆け回ってほしい、と願っての保養プロジェクトだった。JIM-NET は、このような測定と保養に毎年チョコ募金の中からも全国の実施団体を応援している。

ところが、2 年前からのコロナ禍である。日本国内でも、県外への不要不急の移動はしないよう繰り返される。それならばとオンラインで福島のお母さん達と話し合ったが、やはり今は放射性物質の怖さというよりコロナ感染を防ぎたいと言われる。

もちろん、第一波の時は、小・中・高・大学は閉校になり、勉強の遅れや友達との人間関係を育むことができなかった。そして、現在は第六波。生活習慣としての、マスク着用・手洗い・ソーシャルディスタンス等基本的な事は身についてきた。

2 年前から、コロナ禍と原発事故、コロナウィルスへの脅威と放射性物質への恐れは似ていると思ってきた。そして、ウィルスは変異しながら落ち着いていく様に、放射性物質も半減期を重ねながら人間への影響力を弱めていく。しかし、長期間に渡って十分に注意をしながら、対処していきたいと思う。

大きな違いは、原子力発電所自体にある。福島のお母さん達とオンラインミーティングをした時、原発処理水の海洋放出をめぐって、家族で意見が割れていると聞いた。処理水を貯水するタンクの場所さえないと言われている時だった。

私自身も頭をかかえていた。その後、政府は一キロ沖に放出する計画を発表した。沖合に放出すればいいのか。諸外国でもそうしているから、と言い訳になるのか。1986 年に大爆発事故を起こしたチェルノブイリ原子力発電所では、鉛とコンクリートで覆った上にシェルターをかぶせた。しかし、中で溶融したデブリは処理しきれないままになっている。日本の福島第一原発事故はそれ以上の困難な課題があると思う。

そして、あの事故によって故郷・仕事・家・友達を亡くした皆さんの事を思い起こす。11 年の月日を経て、それぞれに変わった生活環境があり、逆に福島の方々から励まされる事の方が多くなった。今を生きる大切さを学び合い、原発を考えていく 2022 年 3 月 11 日になった。

皆さまへ、感謝を込めて

KAMATAの
つぶやき

チョコ募金へのご支援、有難うございました！今回は六花亭さんのご協力で14万個を用意しました。コロナ禍でのチョコ募金、イベントでの呼びかけはほとんどと言ってよいほど出来なかったにもかかわらず、2月3日に無事、終了することができました。昨年11月9日に開催したチョコ募金キックオフイベントから2週間で、なんと4万個を越えた申込があったことがつい昨日のことのようです。

ずっとJIM-NETを応援してくださっている関西の方からは、1,000セットという未だかつてない量の募金をしてくださいました。しかも、「私にはそんなにたくさんのチョコを食べることはできないので」と、イラクの病気の子どもや福島の被災地の子どもたちに配って喜んでもらいたいという、心優しい宿題もいただきました。ありがたいことです。南相馬でネットワークを生かした協力をして下さる方のお陰で、福島の障害児たちへプレゼントすることもでき、今でもたくさんのお礼状が届いています。イラク現地へ渡航を控えたスタッフ達が第二回目のチョコ配布の準備をしています。

コロナ禍で先が見えない今、行動も制限されたままで気持ちが重い状態が続きますが、JIM-NETの周りには優しい気持ちを持ち続けてくれる皆さまが応援してくださり、心から感謝します。

鎌田　實（JIM-NET代表）

♥チョコ募金にご協力をありがとうございました！♥

今回もコロナ禍でのチョコ募金となり、今年こそは厳しい状況では？と想定しておりましたが、受付スタート前からたくさんのお問い合わせをいただき、開始と同時に多くのお申込みをいただきました。皆さまの温かいご支援に心から感謝申し上げます。

チョコ募金期間中は、チョコ缶のデザインへのご感想や温かい応援のメッセージを頂戴する度にスタッフ一同が大変励まされました。

チョコ募金のお申し込みが途切れないなか、封入と発送をお願いしている福祉作業所・はなみずき様が迅速かつ丁寧に対応してくださいました。また、いつも美味しいチョコをご提供くださる六花亭様、缶を製造してくださる古茂田工業様、チョコカードを印刷してくださる山猫印刷様など、多くの方々のご協力とご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

皆さまからのたくさんのご支援のお陰で、今年も無事にチョコ募金を終了することができました。貴重なご寄付は、大切に現地の子どもたちのための活動に使わせていただきます。引き続き、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

岩崎ルミ（チョコ募金担当）

チョコ募金キックオフチャリティーイベント

JUSTPEACE!

～虹の彼方へ～

昨年 11 月 9 日にチョコ募金キックオフイベントをオンラインで開催しました。前半は、現地駐在員・牧野アンドレによる報告と『おうちでイラク』としてローカルスタッフがアルビル市内の名所やバザールの様子をお伝えし、普段は知らない現地の姿を垣間見ることができました。後半は湯川れい子先生をメインゲストとしてお迎えし、斉藤とも子さんにお話しを伺って頂きました。お話しの一部の抜粋をご紹介いたします。

斉藤：湯川さんは、ご自身のお仕事以外にも平和の活動をずっとされていて、そういう平和への思いはどのように培われたのでしょうか。

湯川：一番上の兄がどんなところでどうやって戦死したんだろうと思ってフィリピンの山の中まで行ったんです。戦後、遺骨が帰ってきて、白木の箱を開けたら、骨って言ったって、コロンと石ころが一つだけあって、え？って思って…。そこの土に梅干しとか煙草を持って行って、骨のひとかけらでもあったら拾ってこようと思って、フィリピンの山の中まで行ったんです。本当にのどかな山村で、お米を作っていて、周囲が山と盆地で、私の郷里の米沢のようなところなのね。数か月で戦争が終わるっていう時に、その 4 か月前にこの村を死守せよと命令があり、とにかく逃げることも後退することもできずに、その命令で戦死しているんですね。こんなバカな、こんな阿保な、誰がこんな命令をして、なんでこの村をそうやって守らなければいけなかったんだ？という思いがあって、戦争が間違いなのは誰でも知っているんですけど…。

左から斉藤とも子さん、湯川れい子さん、牧野アンドレ

いきなり話が飛びますけど、来年の 1 月 4 日に私の新しい本が出るんです。そのタイトルを『時代のカナリア』としようと思っているんです。これは、坂本龍一さんも同じようなことも言ってらっしゃるし、スティングも同じことを言っているんですけれど、アーティストは炭鉱のカナリアだと。つまり、カナリアは籠に入れられて、炭鉱の中にぶら下げられていて、1 日中歌っていて、空気が悪くなると鳴かなくなるのね。で、カナリアが鳴かなくなると、「ここは空気が悪い、危ない！」だから逃げろとっていうのが炭鉱のカナリアなの。アーティストというのは非常に敏感で、いろんなことの変化に気が付きやすいから。　　**崔　麻里（広報・イベント担当）**

♥ ♥ ♥ ♥ ♥ ♥ ♥ ♥ ♥

☆当日の内容は DVD でご覧頂けます。
事務局（03-6228-0746）までお申し込みください☆

イラクとシリアの子どもたちの絵画展

昨年からコロナ禍の影響でバレンタインデーを挟む会期での開催を控え、子どもたちの絵に触れながらチョコ募金して頂く機会が減ってしまいました。

昨夏は EBISU ROOM で絵画展を開催し、多くの皆さまとの再会が大変嬉しく、小さな会場に子どもたちの絵と写真に囲まれた温かな雰囲気も好評でした。

その折にご紹介した『Coffee for Peace ！』（ドリップコーヒー）もお陰さまで皆さまに喜んでいただいております。

現在、新しい絵柄の制作に向けて準備中ですが、ドリップコーヒー完成に合わせ、7 月～ 9 月を目標に展示会を企画しております。詳細が決まり次第に HP、SNS 等でお知らせいたしますので、どうぞお楽しみに！

＝ BOOK　GUIDE ＝

いつも JIM-NET を応援して下さっている湯川れい子さんと加藤登紀子さん、鎌田代表の近著をご紹介いたします。
是非、お手に取ってご覧ください！

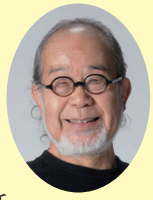
湯川れい子著
『時代のカナリア』
集英社　1,760 円

86 歳の今も現役でラジオにテレビに活躍し続ける湯川れい子さんが一番､伝えたいことは「戦争反対！」と「差別反対！」。太平洋戦争の最中に子供時代を過ごし、父と兄を失い、疎開も経験した。だからこそ無責任な命令と人命の軽い扱いには憤りを隠さず、声を上げ続けてきた。さらに仕事上の「女性差別」や「いじめ問題」にも意見を堂々と公開してきた。この本は、夢を追い続ければきっとかなう！とひたむきに生きた働く女性の昭和史であり、現在のさまざまな問題への正論提起でもあります。音楽の仕事を続けるからこそ感じる戦争への空気や、地球環境の変化や食料の不足がもたらす世の中の変化などにも警鐘を鳴らす。まさに時代のカナリアとしての「大切なことを伝えたい！」と願う渾身の一冊です。

加藤登紀子著
『哲さんの声が聞こえる
～中村医師が見たアフガンの光』
合同出版　1,870 円

哲さんがアフガンの地から私たちに投げかけたのは、これからの未来を、光あるものにするのか、それともこのまま奈落の底に向かうのか、その岐路に立たされていることへの警告です。今、あなたが何歳であろうと、ここからの時間は未来のためにあります。
哲さんは、もうこの世にはいないけれど、彼の声は今も私たちに問い続けています。
その声を聞き、受け止め、それぞれの場所で少しでも光の方へ一歩を踏み出せるように、中村哲さんの思いを共に出来たら、と願ってこの一冊を綴りました。
途方に暮れながらも、与えられた時間を素晴らしく生きたいと願うあなたに贈ります。

鎌田實著
『ちょうどいい孤独』
かんき出版　1,540 円



「孤独でかわいそうに、なんて大きなお世話。
『ちょうどいい孤独』で人生の満足度を上げよう」！
孤独を癒すのではなく、孤独を楽しむことを提案しています。孤独“に”生きるのではなく､孤独“を”生きる。つまり「望んで得る孤独」のすすめです。 孤独を楽しめれば周囲の雑音に惑わされることなく、自分自身の本来の姿に立ち返ることができます。精神的な自立は、家族や友人との付き合い方も風通しのいいものに変わっていくでしょう。「孤高」を求めるのではなく、ゆるやかな孤独を楽しむ。そんな大人の生き方の提案です。

〈お知らせ〉

これまでは年 4 回発行の JIM-NET 便りですが、来年度から年 3 回（7 月・10 月・3 月 ）とさせていただくことになりました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية
特定非営利活動法人　JIM-NET（ジムネット）
〒 169-0075　東京都新宿区高田馬場４丁目４番 11 号　内藤ビル２Ｃ
電話 03-6228-0746　メール info-jim@jim-net.net
郵便振替口座　00540-2-94945　加入者名　日本イラク医療ネット
Facebook、Twitter、Instagram もぜひご覧ください。『JIM-NET で検索』
募金・サポーター会費はこちらへ➡